

「横浜みどりアップ計画」地域緑のまちづくり

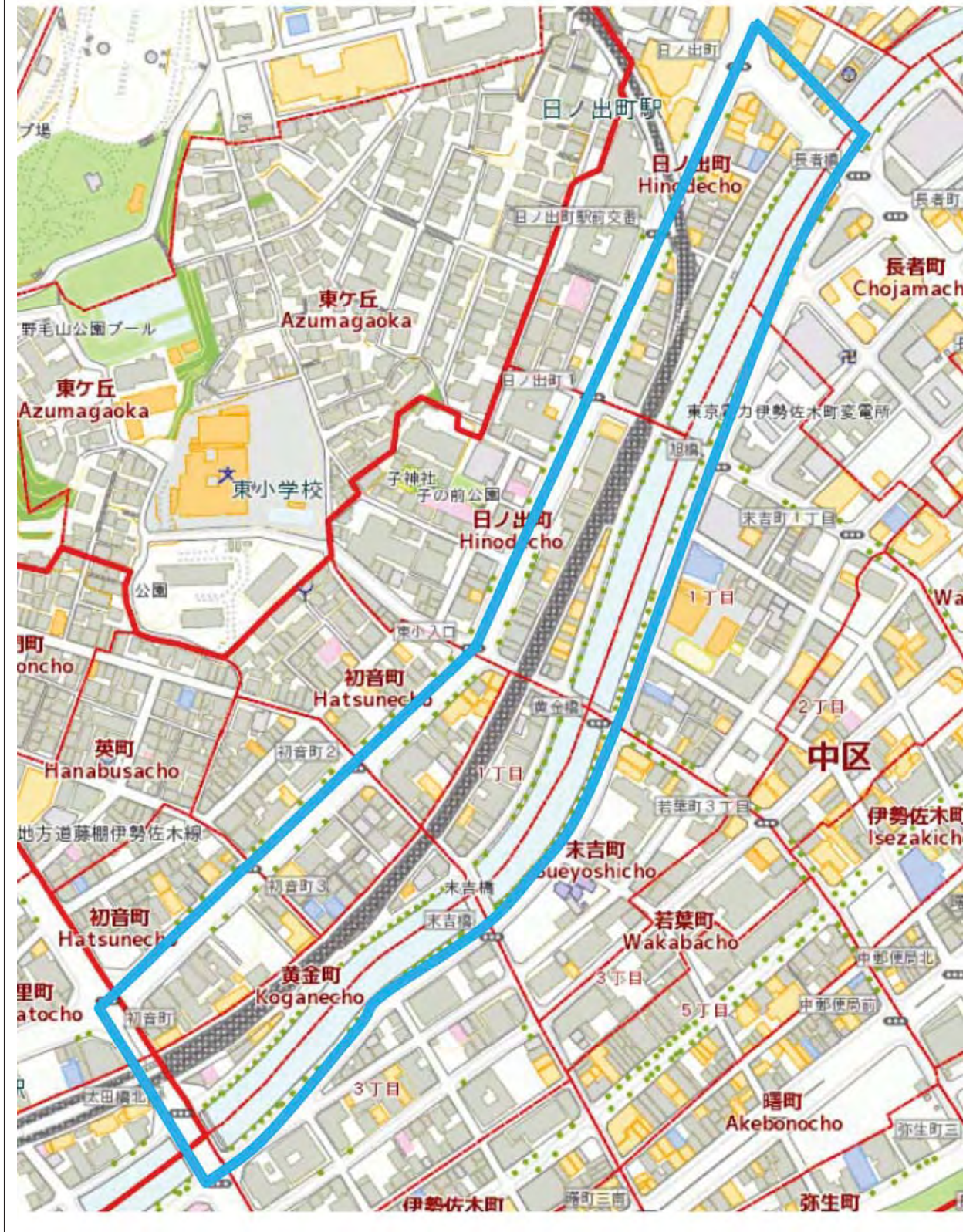
## 初黄・日ノ出町地区 地域緑化計画書

計画名：大岡川の新たな景づくり

推進団体名：大岡川の水と緑を考える会

この地域緑化計画書は、公開します。

計画対象範囲図（大岡川の新たな景づくり）



<p>計画期間</p>	<p>平成 27 年度 ～ 平成 29 年度</p>
<p>計画概要</p>	<p>当該地区では、近年、大岡川を活用した様々な活動が活発になってきている。また、長年にわたって大岡川に接する町内会が連携し「大岡川桜まつり」を開催するなど、大岡川への関心が高い地域である。そこで、当会では、地域全体に緑化の意識が波及する効果の高い場所として、大岡川に面する公共空間を緑化することを第一義に考えた。大岡川に沿って当該地区ではプロムナード整備が完了し、また、桜栈橋や横浜日ノ出栈橋という水上アクティビティの拠点整備が完了していることから、当該地域に緑の存在を PR する上でも、大岡川に面する空間を緑化することが重要だと考える。そして、2 年目、3 年目と整備範囲を大岡川という公共空間から民地へと広げていくことで、さらなる緑化の意義を広めていくことを考えている。さらには、既存の緑化に資する設えがある建物にも緑を配置していくことで、面的な広がりを持つ緑化を垂直方向にも展開し、視覚的な効果を生むことを目指す。</p>
<p>立地環境</p>	<p>当該地区は、戦後違法風俗店舗が立ち並ぶ売買春のまちであった。2005 年に実施された神奈川県警による一斉取り締まり「バイバイ作戦」によって違法風俗店舗の営業が一掃されたが、一方で治安維持への課題や、地域再生の必要性が高まってきた。2008 年には現代アートの展覧会黄金町バザールが開催され、継続的なまちづくり活動を展開する基礎がつけられた。現在では、安全・安心なまちづくりを目指し、アートの創造性を活かしたまちづくりが進められている。これにより、イベント開催時は一時的に来街者が多くみられるものの、日常的な賑わい創出に向けては、まだ課題も多い。一方で大岡川プロムナードの整備も進められ、水辺の空間整備は進んできていることから、地域にも広がっていくさらなる“景”を作るべく、大岡川周辺の緑化によって川とまちの新しい魅力づくりを目指す。</p>
<p>計画の効果</p>	<p>当該地区は、上記のような立地環境であり、元違法風俗店舗が建ち並ぶ路地に関しては、昔の面影が多く残り、良好な景観を形成できていない。一方で、その特異な景観を当該地区の特徴と捉え、それらを活かしていこうとする考え方も地域の中にはあり、当該計画では、立面的な緑化に臨んでいる。また、大岡川に面する空間に関しては、対岸からの景観を意識する必要がある。大岡川とその背景としての野毛山丘陵との関係性を考慮し、大岡川プロムナードの緑が増えることで、緑の連続性を担保できると考える。ただし、対岸からの景観が良好になったとしても、こちら側から見たときの風景が変わらなければ、緑化の効果は一方的なものになってしまう。そこで、第 2 期工事に向けて対岸の町内会にも働きかけ、橋詰め部分を緑化することで、良好な景観形成を目指す。それによって、地域資源としての大岡川および周辺地域は、様々な活動が集まる場所としての認知度を向上させ魅力を高めることにつながる。そういった空間を緑化の対象とすることで、多様な団体・個人間で緑の意義を共有できると考えている。</p>

<p>計画期間中の 仲間づくり・資金</p>	<p>当面は、現在 10 名の仲間です。会を運営するが、公的な空間、オープンスペースへの緑化を目指す会としては、会員だけにとどまらず、管理運営について協力してくれる団体と連携していく。特に、毎月第 2 木曜日に実施しているハマロード・サポーターに参画している方々は、大岡川の環境整備に協力的であることから、それらみなさんの協力を得て、水やりや剪定、掃除等を一緒に実施してもらおうよう働きかける。また、町内会にて会の活動を周知することで、日常的に管理に携わって頂ける方を募集していく。</p> <p>自己資金が発生する場合に備えて、地元商店会と協力し、プランター等に設置するサインに店名を記載するなどの相互関係を構築し、そこから寄付的に活動費用を捻出していくことを考えている。</p>
<p>計画期間終了後の 仲間づくり・資金</p>	<p>前出の通り、仲間づくりを継続し、会の活動に賛同する人を増やしていく。一方で計画期間終了後に整備物品が破損し、修理が必要となった場合には、賛同する人の中にある技術を活かす。特に、専門的な技術を要する内容においても、当該地区は、手仕事に長けた住民も多く、その技術をお借りするほか、アーティストも多いことから、これらの協力関係で対応する。場合によっては、整備した箇所をさらにリメイクすることでインターネット等にて寄付を募り、アーティストの作品に加えてその費用を捻出することも想定している。</p> <p>日常的な手入れに関する費用については、前出のサインに掲示する広告料のようなもので収入を得て、それを費用に充てることを考えている。</p>
<p>創意工夫</p>	<p>当該地区は地区再生まちづくり活動を展開しており、アーティストやクリエイターが多く立地する地区である。この創造的な人材の力を借りることができる点が他の地区に無い魅力である。また、大岡川の水アクティビティを展開する団体も、その拠点を当該地区に置いていることから、陸上と水上の両方の活発な活動が繰り広げられている。これらの人材の協力やアート・水辺活動と連携して、大岡川とその周辺地域の緑の重要性を認知してもらおう創造的で魅力的なイベントを実施することで、相乗効果が期待される。また、会が活動する整備事業や、日常的なメンテナンスに関しては、手仕事に長けた住民等の協力が得られるため、日常から非日常においても地域の緑をアピールできることが当該地区の強みである。</p>

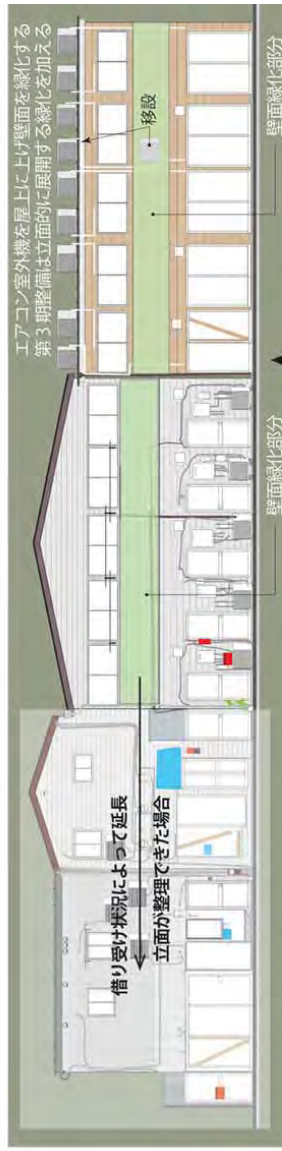
計画年次	計 画 内 容
<p>1年度目 (平成 27 度)</p>	<p>【民有地地域緑化】 プロムナード緑化整備／橋詰部緑化整備 プランターA 育成板付 12 基 (内、2 基は橋詰め部に設置) 制作＋コバノランタナ 140 鉢植樹／プランターB サイン板付 2 基制作 (サインはカットティングシート貼り) ＋コバノランタナ 20 鉢植樹</p> <p>【地域緑化活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持・管理費：スコップ、剪定鋏、ホウキ、塵取り、如雨露等の維持管理用具の購入</li> <li>・広報・研修費：研修会 1 回 (30 名想定) の実施、植樹祭＋桜まつり用 PR パネル、チラシ等製作</li> <li>・月 1 回定例会の実施 (3 回程度)</li> </ul>
<p>2年度目 (平成 28 年度)</p>	<p>【民有地地域緑化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋詰部緑化整備 プランターA 育成板付 5 基 (橋詰め部に設置) 制作＋コバノランタナ 100 鉢植樹</li> <li>・高架下緑化整備 残土撤去、土壌改良 (共に 4.5 m<sup>3</sup>) の上、花壇縁石整備 (約 20m×4 箇所=80m) 地被等 (コグマザサ等) 240 鉢＋低木 (アジサイ等) 120 本を植樹</li> </ul> <p>【地域緑化活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持・管理費：園芸資材、苗等の購入、修繕等</li> <li>・広報・研修費：植樹祭 1 回＋研修会 1 回 (30 名想定) の実施、桜まつり用 PR パネル製作・展示</li> <li>・月 1 回定例会の実施 (12 回程度)</li> </ul>
<p>3年度目 (平成 29 年度)</p>	<p>【民有地地域緑化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロムナード緑化整備／橋詰部緑化整備 プランターA 育成板付 13 基 (内、橋詰め部に 3 基) 制作＋コバノランタナ 160 鉢</li> <li>・壁面緑化整備 既存空調移設の上、2 階壁面部分に緑化フレーム制作・取付 (約 18 m<sup>2</sup>分)、プランターを設置しモッコウバラ 50 株を植栽。</li> <li>・既存壁面プランター植栽 宿根草 (コバノランタナ等) 約 100 鉢植栽 (1 建物に 50 鉢程度×2 建物分)</li> </ul> <p>【地域緑化活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持・管理費：園芸資材、苗等の購入、修繕等</li> <li>・広報・研修費：研修会 1 回 (30 名想定) の実施、植樹祭＋桜まつり用 PR パネル、チラシ等製作</li> <li>・月 1 回定例会の実施 (12 回程度)</li> </ul>
<p>計画期間 終了後</p>	<p>計画終了後は、経常的なまちづくり活動の中で、維持管理のルールづくりと維持管理を継続していくとともに、緑や大岡川に関心のある団体との交流を通じて多様な人材の参画を目指していく。また、大岡川を活用した様々なイベントを関連団体と連携し実施する事で、より多くの来街者に街の魅力と緑化の効果をアピールしていく。</p>

緑化計画全体の考えとマネジメント

大岡川プロムナードを第1期整備として、緑化を実施し、新しい景を創出する。その後、第2期整備として、橋詰部分の整備及び、京急高架下の空間（民地・特にSite-C表とSite-B裏、階段広場周縁部）を地被植物にて緑化し、緑化される範囲を民地へと繋げる。そして、第3期工事として、大岡川プロムナードの緑化に加え、建物の壁面緑化することで、平面的な緑の広がりをつくることと立体的に立ち現れる緑によって、視覚的に緑の存在をアピールしていく。

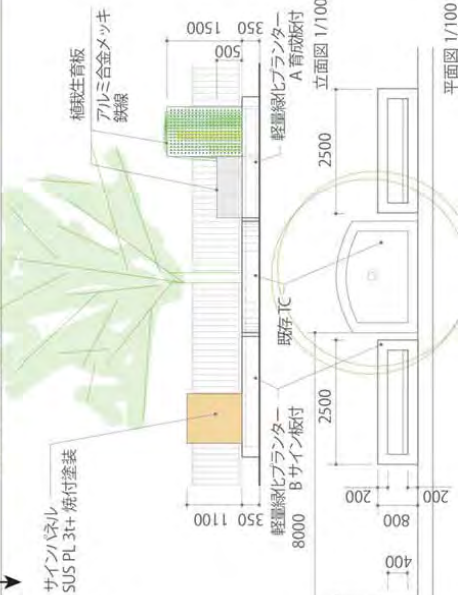
また、その段階的な緑化に併せて、まずはコアメンバー（会員）による活動から、高架下空間周辺に住まう地域住民や施設利用者、そして、小規模店舗にて活動するアーティスト・クリエイターに管理をお願いしていくことで活動の輪を広げていく。

そして、段階的に緑に対する関心が広がり始める第3期整備時期に併せて、目らの敷地において緑化したい住民が出てきた場合には、植栽を提供することで、さらなる広がりを目指す。



植栽・デザインイメージ

既存の桜ソリサークルの両側にプランターを設置する。そのプランターの上部は立体的に植物（コバノランタナ）が生育できるように、板状のものを設置する。また、サインパネルも併せて設置することで、当該活動を含めたまちづくり活動を広報できるようにする。



概算事業費 (単位：千円) (注1.5)

助成項目	細目	1年度目 (平成27年度)	2年度目 (平成28年度)	3年度目 (平成29年度)	項目ごとの合計	※【参考】 助成率・助成金額の上限
1 民有地緑化	①設計等経費 (主な内容) プロムナード・護岸緑化整備実施設計 橋詰緑化整備実施設計 壁面緑化整備実施設計	864	1,544	380	2,788	100%以内
		2,881	2,625	4,032	9,538	
2 景観木保全	②緑化整備等経費 (注2) (主な内容) プロムナード・護岸緑化整備 橋詰緑化整備 高架下緑化整備 壁面緑化整備	0	0	0	0	100%以内 (上限20千円/本)
		0	0	0	0	
		0	0	0	0	
		0	0	0	0	
3 地域緑化活動 (注3)	①維持・管理費 ②広報・研修費 ③事務費 ④諸雑費	260	240	240	740	100%以内 (上限50千円/ 本) 100%以内 (上限50千円/ 本) ①～④の合計 1,000千円以内 /年度
		225	225	190	640	
		100	100	100	300	
		21	40	40	101	
年度ごとの合計 (注4, 6, 7, 8)		4351	4774	4982	総合計 14,107	1～3の合計5,000千円以内/年度

(注意事項)

- 注1：概算事業費(予定金額)は、計画の助成金と自己負担金を含めた額となります。計画がない項目や細目は、0(ゼロ)となります。
- 注2：民有地緑化の緑化整備等経費には、最低10%の自己負担金が必要となります。(助成金申請時に、自己負担金が用意できることが助成金交付の要件となります。)
- 注3：地域緑化活動の助成項目では、1年度につき1,000千円が助成金額の上限となります。
- 注4：民有地緑化、景観木保全、地域緑化活動の助成金の合計は1年度につき5,000千円が助成金額の上限となります。(3年度総合計の助成金額の上限は、15,000千円です。)
- 注5：概算事業費は、千円単位となります。(なお助成金額は、千円未満切り捨てとなり、端数は自己負担金となります。)
- 注6：本概算事業費の年度ごとの合計金額を上回る助成金の申請はできません。
- 注7：年度ごとの概算事業費を作成することとし、年度間での助成金のやりとりはできません。(年度ごとに助成事業を完了させる必要があります。)
- 注8：上限内での年度ごとの項目間、細目間での事業計画の見直しは、可能です。(28年度の地域緑化活動における維持管理費を増やし、その分の広報研修費を減らすなど)